

プログラム

12:30～開場 / 13:00～13:10 開会のあいさつ・趣旨説明

13:10～13:50

市田真理氏講演

「第五福竜丸は航海中」

14:00～15:00

市田真理氏 × 瀬尾夏美氏対談

「負の記憶をいかに継承するのか」

15:15～15:35

本間恵美子氏による

『死の灰詩集』リーディング

15:35～16:10

本間恵美子氏講演

「ノーベル平和賞を受賞して」

トークイベント

核の記憶を次世代へ 第五福竜丸事件と 核のない世界

参加無料

申し込み不要
(定員100名)

2025年1月25日[土] 13:00～16:10

[会場] 松江テルサ 4階 大会議室

〒690-0003 島根県松江市朝日町478-18 (JR松江駅前)



市田真理

(いちだまり)

第五福竜丸展示館学芸員。公益財団法人第五福竜丸平和協会事務局長。

中央大学・立教大学兼任講師、明治学院大学国際平和研究所研究員。札幌生まれ。書籍編集者、市民運動事務局などを経て第五福竜丸平和協会職員となる。著書に『ポケットのなかの平和』（平和文化）、共著に『第五福竜丸は航海中』（現代企画室）ほか。



瀬尾夏美

(せおなつみ)

アーティスト、詩人、記録のコレクティブ「NOOK」代表。土地の言葉と風景

の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。東日本大震災後の岩手、宮城での制作を経て、現在は東京を拠点にし、「語れなさ」をテーマに各地を旅して物語を書いている。著書に『あわいゆくこゝろ一陸前高田、震災後を生きる』（晶文社）、『二重のまち／交代地のうた』（書肆侃侃房）、『声の地層一災禍と痛みを語ること』（生きのびるブックス）。



本間恵美子

(ほんま えみこ)

NPO法人出雲学研究所副理事長（荒神谷博物館参与）。松江市生まれ。

2014年、被爆者だった母親の逝去がきっかけで島根県被爆二世の会に入会し、現在は島根県原爆被爆者協議会会長を務める。その後被爆二世として初めて日本原水爆被害者団体協議会の理事会役員（中国ブロック選出代表理事）に就任し、ノーベル平和賞受賞式に代表団の一員として出席。



「負の歴史」をいかに次世代に継承していくのかという問題には常に困難がついて回る。

本年でちょうど70年を迎える「第五福竜丸事件」もそのひとつである。

1945年、核によって終戦を迎えた日本。その痛みや傷がまだありありと残っている1954年にこの事件は起こった。

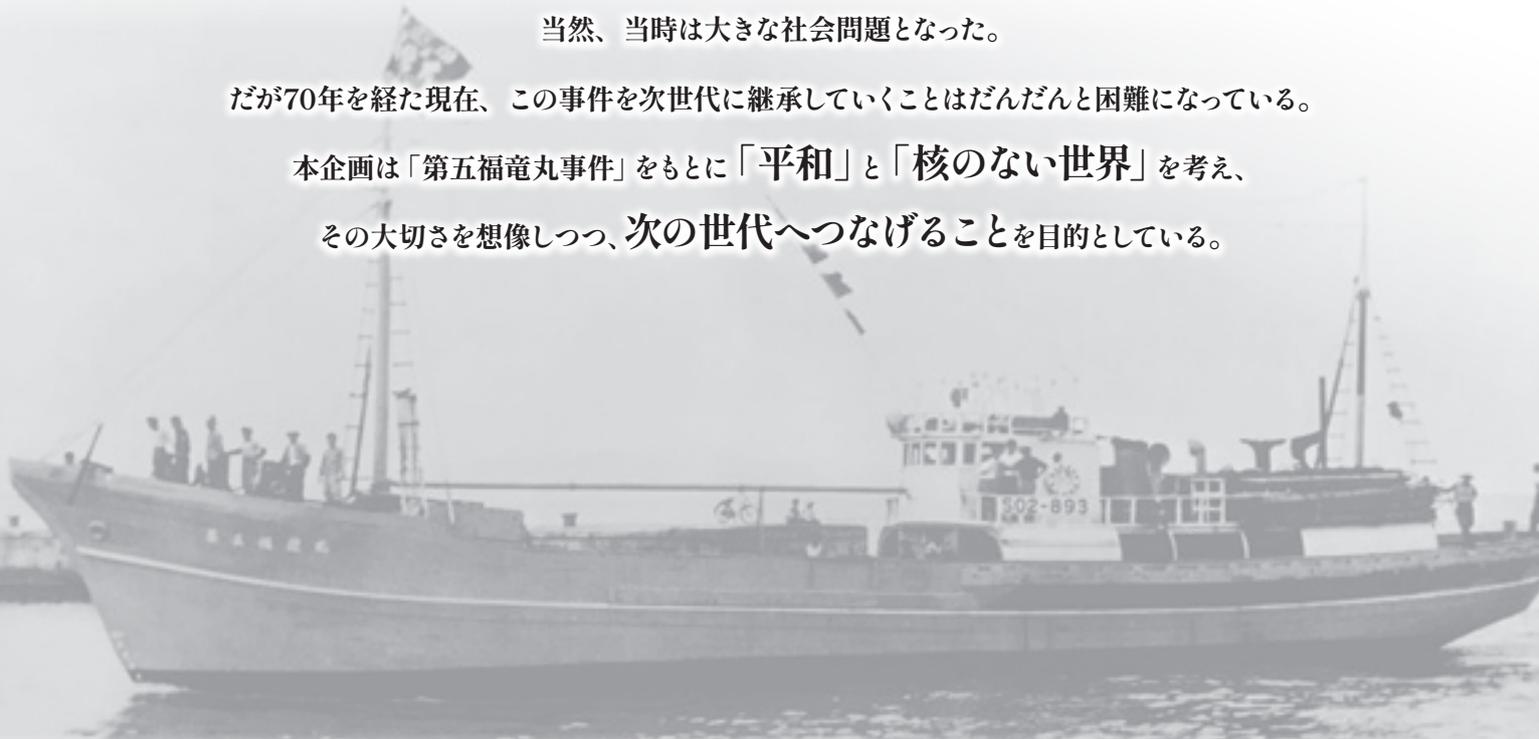
太平洋のマーシャル諸島ビキニ環礁で行われた米軍の水爆実験によって、日本のマグロ漁船「第五福竜丸」が被ばくし、乗組員23名が「死の灰」を浴びたのである。

当然、当時は大きな社会問題となった。

だが70年を経た現在、この事件を次世代に継承していくことはだんだんと困難になっている。

本企画は「第五福竜丸事件」をもとに「平和」と「核のない世界」を考え、

その大切さを想像しつつ、次の世代へつなげることを目的としている。



焼津港を出港する第五福竜丸 (1953年)

同時開催
パネル展示

第五福竜丸事件と 核のない世界

入場
無料

2025年
1月23日[木] > 2月27日[木]

[場所] 島根大学附属図書館 展示室

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

[共催] 島根大学附属図書館

※休館日ならびに開館時間は、島根大学附属図書館のホームページをご覧ください



[展示内容]

パネル展示 (第五福竜丸事件の概要、マーシャル諸島の人びと、世界の核の現状)
久保山愛吉さんへ寄せられた激励の手紙、関連図書 他